

目 次

概要	1
ア. 青少年世代が安心安全に過ごし、交流できる居場所事業	
ア-1 「調布市青少年ステーション」事業運営受託	3
ア-2 「調布市立緑ヶ丘児童館」運営業務受託	5
ア-3 「調布市立緑ヶ丘児童館学童クラブ」運営業務受託	6
ア-4 「調布市立せんがわ学童クラブ」運営業務受託	7
ア-5 「調布市立緑ヶ丘小あそびバ」運営業務受託	8
ア-6 「復興の未来へ行こう！ワカモノプロジェクト」	10
イ. 青少年世代が自立して社会に適応するための支援事業	
イ-1 「NPO 法人 CLIC 協力」事業	11
イ-2 「調布市観光 PR 事業」受託	12
ウ. 目的を同じくする他団体とのネットワーク構築事業	
ウ-1 「調布市平和派遣『ピースメッセンジャー』活動支援業務」受託	13
ウ-2 「『ちょうふピース部』の取組支援業務」受託	14
エ. 青少年世代が近隣の活動に参画し、社会体験を通じて自らも地域もより元気になることを目指す地域活性化事業	
エ-1 地域団体との連携・協力	15

事業概要

NPO 法人ちょうふこどもネット（以下 こどもネット）は、設立から 20 年が経過しました。「調布市青少年ステーション CAPS（以下 CAPS）」の受託事業から始まり、現在は市内に 0 歳～29 歳（こどもネットでは 0～29 歳までを「青少年」と定義）までの切れ目ない支援を実施することができています。この 20 年の間に、社会情勢は変化し、子どもの人数が減少していると共に、核家族の割合・共働き世帯の上昇、さらにヤングケアラーの問題や高齢者のみの世帯が増え、以前とは違う様相となっています。こどもネットは、青少年の支援を中心に行ってきましたが、様々な課題を抱える地域課題についても連携し関わることで、地域で安心して青少年が成長できるようにしてきました。

令和 6 年度は、どの事業においても、表面化している利用者の課題への対応だけでなく、表面化せず、関わる中から分かってきた課題の両方への対応をスタッフ間で検討を重ね、対応をする場面が増えました。青少年にとって適切だと判断した場合は、地域や関係機関と連携をとりながら進めたことで、時間が経つにつれ良い方向へ前進したケースもありました。しかし、中には青少年の周囲の環境の影響で、改善されないケースも見受けられ、対応に悩んだ 1 年でもありました。各事業で関わっているスタッフはどんな時でも目を背けず、青少年や保護者と向き合い対応をとることで、成長したときには社会へつながるために行動をしてきました。今後は、より一層学校や関係機関との連携が必要になってくるかもしれません。

令和 5 年度から立ち上がっている「リブランディングプロジェクト」では、ビジョン、ミッション、行動指針が決まり、今後、こどもネットのイメージ戦略に取り入れられる「ロゴ」の作成、「ホームページの構成」に取り掛かかりました。ロゴやホームページ等の広報媒体については、専門家にお願いすることとし、市内の事業者数社のプレゼンを聞き、「株式会社 Shinari Design（シナリデザイン）」にお願いすることになりました。シナリデザインさんは、上石原に本社をもつ会社で、地域としても今後関係をもてるものと考えています。今後は、行動指針を全スタッフへ浸透させると共に、リニューアルされる広報媒体により、自信をもって広報活動ができるように進めていきます。

さらに、事業拡大に伴うこどもネットの基盤整備については、令和 6 年度下半期から、労務管理の業務に新しい社会保険労務士の方をお迎えすることができました。新しい社会保険労務士の方は、こどもネットの法人規模や状況を踏まえ、共に考えていただけるようになりました。また、委託事業が多いこどもネットは、行政との仕事もしている社会保険労務士と一緒にやっていけることは、より力強く感じています。令和 6 年度は、法改正に伴う就業規則の改定や、賃金計算における考え方の整理等お願いし、令和 7 年度 10 月まで

には就業規則が整い、法人側も労働者側も安心して働く環境が整うように進めています。

現在は、労務、税務、法務を専門家に依頼をすることができ、法人として当たり前のことを間違いなく行えるようになるると同時に、業務の効率化につながりました。こどもネットは、今後も基盤整備は必要なことから、専門家の意見を聞きながら「こどもネットだから働きたい」と思えるような法人を目指します。

令和6年度の活動報告を詳しく説明します。

ア. 青少年世代が安心安全に過ごし、交流できる居場所事業

- ア-1 「調布市青少年ステーション」事業運営受託
- ア-2 「調布市立緑ヶ丘児童館」運営業務受託
- ア-3 「調布市立緑ヶ丘児童館学童クラブ」運営業務受託
- ア-4 「調布市立せんがわ学童クラブ」運営業務受託
- ア-5 「調布市立緑ヶ丘小あそびバ」運営業務受託
- ア-6 「復興の未来へ行こう！ワカモノプロジェクト」

イ. 青少年世代が自立して社会に適応するための支援事業

- イ-1 「NPO 法人 CLIC 協力」事業
- イ-2 「調布市観光 PR 事業」受託

ウ. 目的を同じくする他団体とのネットワーク構築事業

- ウ-1 「調布市平和派遣『ピースメッセンジャー』活動支援業務」受託
- ウ-2 「『ちょうふピース部』の取組支援業務」受託

エ. 青少年世代が近隣の活動に参画し、社会体験を通じて自らも地域もより元気になることを目指す地域活性化事業

- エ-1 地域団体との連携・協力

参考資料：国民生活基礎調査 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa23/dl/10.pdf>

ア. 青少年世代が安心安全に過ごし、交流できる居場所事業

ア-1 「調布市青少年ステーション」事業運営受託

対象者：主に中・高校生世代

連携先：市内中学校、市内高等学校、市内各児童館、調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」、石原小学校地区協議会、健全育成推進石原地区委員会、教育相談所、教育センター、子ども家庭支援センターすこやか、調布市子ども・若者支援地域ネットワーク、調布市国際交流協会、富士見子ども連絡会、こども食堂かくしろうじ、東京都エイズ啓発拠点ふぉーてぃー、杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）、西東京市ひばりが丘児童センター、文京区青少年プラザ(b-lab)、調布市社会福祉協議会 他

利用者が安心・安全に過ごすことができる居場所事業を継続的に行いつつ、令和6年度はコロナ禍以前の状態に戻すことを目標に、飲食を伴う事業や、大人数が集まれるような企画を多く行いました。また、テレビの報道番組で取り上げられたことにより、見学・視察が非常に多い年となりました。

1. 中・高校生世代居場所事業

(1) 中・高校生世代主体活動のサポート

日頃より職員は積極的にロビーワークを行うことで利用者との信頼関係を築き、彼らが何を望んでいるのか、何を行いたいかを探り、実現に向けたサポートを行いました。

(2) 困難を抱える利用者のサポート

令和6年度は特に困難を抱える利用者が多く来館し、業務上の大きなウェイトを占めました。職員は相談担当と共に話し合いを行い、彼らの話を受け取りながら、行ってはいけないことに対してはしっかり伝え、必要に応じて学校、すこやか、ここあと連携を行いながら対応しました。

(3) 異世代・他地域交流の場づくり（調布市他児童館との連携・交流）

令和6年度は新たに調布市内各児童館にWi-Fi環境とSwitchが導入された事により、調布市内の他児童館とオンラインゲームを通じた交流を行いました。

(4) IT強化（eスポーツ部）

eスポーツ部（サークル）を設立し、11名の部員でストリートファイター6の一般大会出場を目指し活動を行いました。

2. 人材育成

令和5年度に3名、さらに6年度に3名の新規職員が加わりました。改めて当法人及びCAPSのビジョンを再確認し、所管課研修参加をはじめ、青少年対応施設の勉強会参加や

職員交換研修を行いました。CAPS 内の業務に加え、地域事業も再開されたので、地域イベントにも多く参加し、当法人が大事にしている地域との関わりを学ぶ機会としました。

ア-2 「調布市立緑ヶ丘児童館」事業運営受託

対象者 : 児童館 小・中・高校生世代

子育てひろば 生後2か月から未就学児とその保護者

連携先 : 児童青少年課、調布市立緑ヶ丘小学校、調布市立第八中学校、市内各児童館、市内各学童クラブ、緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会、健全育成推進緑ヶ丘地区委員会、教育相談所、教育センター、子ども家庭支援センターすこやか、調布市社会福祉協議会 他

緑ヶ丘地域の児童対象事業を一括して受託してから2年が経過しました。(令和3年度緑ヶ丘児童館学童クラブ、令和4年度緑ヶ丘児童館、令和5年度放課後子供教室「あそびバ」)

令和6年度に緑ヶ丘児童館は40周年を迎え、地域の方々のご理解とご協力のもと、児童館・子育てひろば・学童クラブの3事業の連携をとり、臨機応変に対応しながら、利用者にとって安心・安全で開かれた児童館運営を行うことができました。しかしながら、学童クラブ事業においては、定員60名に対し85名と今年も定員を大幅に超過して受け入れざるを得なかったことから、児童館として私たちが本来提供したいと考えている事業や活動をすべて行うには至りませんでした。毎日多くの子どもたちが来館する緑ヶ丘児童館では、居場所の確保に苦心しており、児童館事業を隣の地域センターを借りて行い、あそびバと合同で広い校庭、体育館を利用した事業を実施するなど地域で連携することで工夫を重ねて事業を行いました。子育て広場では、近隣にプレイセンターが開設したこともあり、乳幼児が遊べるだけでなく、保護者自身がりフレッシュできて、子どもを連れて様々な体験ができる事業を多く取り入れました。法人の特色の一つでもある中・高校生世代居場所事業においては、中高生タイムを近隣中学校に周知を行い、来館者の意見・要望等を受け入れながら利用者増加に努めました。

緑ヶ丘小学校、第八中学校とは良好な関係を築いており、特に小学校とは各担任・各担当の先生と直接子どもの様子を共有する機会を複数回持ちました。東部地域のつつじヶ丘児童館・東部児童館とは3館合同で東京都のデジタル事業を行いました。今後もより連携の機会を多くとっていきたいと考えています。地域諸団体の会議に参加して、それぞれが関わる各地域イベントに参加・協力し、健全育成主催の「みどりんキャンプ」も5年ぶりに行うことができました。また、調布市以外の近隣施設にも乳幼児施設連絡会へ参加していただいている関係から世田谷区の連絡会へも参加し、三鷹市からの利用者もあることから行政区を超えた繋がりを継続して持つことができます。

ア-3 「調布市立緑ヶ丘児童館学童クラブ」事業運営受託

対象者 : 就労等で保護者が日中不在の緑ヶ丘小学校地域の小学生（1年～6年）
連携先 : 児童青少年課、調布市立緑ヶ丘小学校、調布市立第八中学校、市内各児童館、市内各学童クラブ、緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会、健全育成推進緑ヶ丘地区委員会、教育相談所、教育センター、子ども家庭支援センターすこやか、調布市社会福祉協議会 他
暫定定員：85名

令和5年度9月に学区域内にせんがわ学童クラブが開設したものの、令和6年度も4月当初の児童在籍人数は1年生51名、2年生30名、3年生4名の計85名と、60名の定員に対して25人が超過する大規模でのスタートとなりました。更に、待機児童（学童クラブの入会申請を行い、入所待ちの児童）が15名と多く、児童が退会してもすぐに次の児童が入所するため、年間を通じて在籍児童超過のまま推移しました。

職員体制は正規職員3名、非常勤職員6名で育成を行い、必要に応じて館長や児童館の担当職員がサポートに入りました。

育成目標を「一人ひとりの子どもが安心して楽しく過ごせる居場所を提供する」として、子どもたちの気持ちに寄り添い、一人ひとりが楽しく過ごせるような学童クラブの運営を心掛けました。また、1・2年生の児童が大半を占めていることから、基本的な生活習慣や、ルールの定着までに時間がかかるため、繰り返し声掛けなどの指導を行い、子ども自身がその都度確認できるよう意識しながら、遊びや生活面での自立を目指した育成を心掛けました。

降館時の集団を2年生が主導せざるを得ないことから、帰り道での安全面の不安やトラブルなどの報告が保護者から寄せられたこともあり、パトロールを適宜行い、コース毎の話し合いや、降館指導を実施して繰り返し安全指導に努めました。

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症流行以前に行っていた、子どもたちの班活動を再開し、ここでも2年生が活躍しました。

毎月の誕生会には集団遊びを行い、すいか割りや節分など季節の行事を取り入れた事業を展開しました。特に大型バスで、葛西臨海水族園に行った秋の遠足は、子どもたちはもちろん、保護者の方からも大好評でした。児童館まつりでは、学童クラブとして2つのブースを出し、保護者の有志の方々の協力を得ながら子ども主体のお店を運営し、ただ遊びに来るだけではできない体験ができました。

ア-4 「調布市立せんがわ学童クラブ」事業運営受託

対象者 : 緑ヶ丘小学校・滝坂小学校（1年生から6年生）※桐朋小学校

連携先 : 児童青少年課、市内小学校、市内各児童館、市内各学童クラブ、緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会、健全育成推進緑ヶ丘地区委員会、子ども家庭支援センターすこやか、子ども発達センター、市内保育園・幼稚園

1. 令和6年度調布市せんがわ学童クラブ事業報告

在籍児童数は1年生15名、2年生4名、3年生24名、4年生2名、6年生1名計46名でスタートしました。（障害児童1名）

令和5年度開設当初児童数は17名でスタートしたせんがわ学童クラブですが、令和6年度につきましては、1年生から3年生が基本となり、4年生・6年生と46名となりました。

正規職員4名（施設長含む）、非常勤職員4名、計8名の職員体制で運営を行いました。（緑ヶ丘児童館から非常勤1名が異動）

2年目となる、せんがわ学童クラブ事業としましては、毎月行われる誕生会や季節に応じた工作等一年を通して子どもたちが楽しめる事業・運営ができました。

2. 事業の実施内容

主な事業については、年間を通して毎月実施する誕生会です。誕生会では、誕生月の児童をお祝いし、特別なおやつを提供しながら児童全員でお祝いしました。

その他に、8月に夏祭りとして屋台を出して、ヨーヨー釣りやゴム鉄砲を作成した射的、お菓子コーナーを設けて夏祭りの雰囲気を出しました。10月にはハロウィンイベント、12月にはクリスマスイベントを開催しました。また、ハロウィンやクリスマス、お正月など季節感を味わってもらうため、期間を設け工作を作成しました。

3月には、新年入会児童の保護者を対象に、学童クラブでの育成について説明しました。

また、せんがわ学童クラブは、小学校や児童館と隣接しておらず、近くに外遊びができる環境がないことから、春休みを利用して世田谷区の公園に行き一日を過ごすことができました。

ア-5 「調布市立緑ヶ丘小あそびバ」事業運営受託

対象者 : 調布市立緑ヶ丘小学校児童及び同校学区域在住の国公立及び私学の小学生
連携先 : 児童青少年課、緑ヶ丘小学校、緑ヶ丘児童館、同学童クラブ、せんがわ学童クラブ、緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会、健全育成推進緑ヶ丘地区委員会、子ども家庭支援センターすこやか、子ども発達センター、市内保育園・幼稚園、市内各あそびバ、調布市社会福祉協議会

1. 調布市放課後子供教室事業緑ヶ丘小あそびバの運営

緑ヶ丘小あそびバは、当法人が受託し2年目となりました。同様に当法人が受託している緑ヶ丘児童館、緑ヶ丘児童館学童クラブ、せんがわ学童クラブと一体的な地域の子ども達の支援がさらに充実してきました。

職員体制も6月から1名増員配置し、常勤のコーディネーター1名と非常勤職員(サポーター)10名の体制を整え、参加児童の利用実態に合わせ、1日3~5名の職員体制をシフト勤務で確保しました。

2. 利用児童の状況

令和6年度は、通常の放課後以外にも土曜日や長期休暇期間の1日開設も含め、年間283日の開設となり、延べで9,061人の利用があり、1日平均で約31.8人の利用がありました。また、利用のための登録児童数は463人(私立等在籍4名含む)となり、緑ヶ丘小学校に在籍する児童数の約94.6%となっています。

学童クラブに登録のある児童でも、あそびバに登録している児童もたくさんいます。

3. 利用児童への対応

(1) 学校施設を利用した活動

学校内の空き教室を活用したプレイルームでの室内の「あそび」活動を中心に、校庭や体育館などを利用して、ダイナミックに体を動かした「あそび」も行いました。

(2) イベントの実施

毎月の塗り絵や各種工作、児童館との交流事業、外部講師を招聘しての各種教室など、多彩なイベントを行い、参加する子ども達に多様な体験の場を提供することに努めました。夏休み期間中に、長崎被爆の平和学習やミニ音楽会なども開催しました。

(3) 課題のある児童への対応

あそびバでの活動の中で、暴言や他害行為の見受けられる児童について、職員間で情報共有を図るとともに、保護者への連絡、学校(クラス担任、通級担当)との相談やケースカンファレンスを行いながら対応をしてきましたが、残念ながら職員の労災対応になる事案が起きてしまいました。

4. 保護者・地域とのかかわり

(1) 保護者とのかかわり

毎月あそびバの広報誌「ビバ NEWS」を発行し、情報提供に努めるとともに、保護者とのコミュニケーションを心がけてきました。

また、学校公開日の午前中には、あそびバを開けて、保護者の方々に見学していただきました。

「未就学児あそびバ体験」として、翌年度あそびバの利用を検討されている年長児とその家族を対象に7月と9月に開催し、それぞれ、9家族27人、8家族22人の参加がありました。このことから就学後の放課後の過ごし方の保護者の関心の高さをうかがい知ることができました。

(2) 学校・地域とのかかわり

同法人の運営する緑ヶ丘児童館、せんがわ学童とは、日頃より連携を深く持つとともに、緑ヶ丘小学校とも校長、副校長をはじめ多くの先生方との連携に努めました。

学校行事を積極的に見学することで、児童の理解を深めるように努めました。

また、地域の健全育成緑ヶ丘地区委員会、仙川・緑ヶ丘まちづくり協議会の事業にも協力し、「あそびバ」の周知を進めました。

ア-6 「復興の未来へ行こう！ワカモノプロジェクト」

対象者 : 調布市内を中心とした中学生から 20 代の青少年（以下、ワカモノ）

連携先 : 調布市、調布市青少年ステーション CAPS、有限会社管理人代行サービス、調布市市民活動支援センター、第 11 回まち活フェスタ実行委員会、東日本大震災慰霊祭 2025 実行委員会、調布よさこい実行委員会

ワカモノプロジェクトは、「ワカモノとして、できることを楽しく続けていく」ことを大切に、「ワカモノがやりたいと思う企画を、ワカモノがノウハウ等で応援する」活動をしています。

メンバーは大学への進学など、各々の環境が変化しています。時間的に忙しいなかでしたが、令和 4 年度から続いている「TRPG 大会」を「やりたいと思う企画」として大切に、継続して実施しました。

令和 6 年度は、「活動を発展させ、交流の輪を広げていく」を目標としましたが、当初の目標であったちょうふこどもネット外へ交流の輪を広げることはできませんでした。一方で、TRPG 大会を続けていくなかで参加者が増え、コミュニティができてきています。また、メンバーがワカモノプロジェクトとして「第 11 回まち活フェスタ」の実行委員会への参加など、新たな経験を積むための土台を作る年となりました。

1. いまやっていることを発展させる活動

(1) TRPG 大会

- ① 定期開催により、新たな参加者を獲得
- ② まち活フェスタでの TRPG 体験ブースの出展

(2) イベントでの出展販売

- ① 調布よさこい
- ② ちょうふチャリティーウォーク

2. 交流の輪を広げる活動

(1) イベント実行委員会への参加

- ① 第 11 回調布まち活フェスタ
- ② 東日本大震災 2025 実行委員会

(2) 地域イベントへの協力

- ① 富士見町夏祭り
- ② 調布中桜まつり

イ. 青少年世代が自立して社会に適応するための支援事業

イ-1 「NPO 法人 CLIC 協力」事業

対象者 : 一般市民、ぬくもりステーションスタッフ、CAPS 卒業生

連携先 : 広報課、協働推進課、高齢者支援室、調布パソコンサークル、Polaris

「必要な情報を、必要な人に、わかりやすく届ける」NPO 法人 CLIC のミッションに共感し、デジタルネイティブである若者たちが自らの得意な分野で地域情報化に貢献し、さらに自身のキャリアアップにもつなげることを目的としている事業です。令和 6 年度も次の 3 業務を行いました。

1. 調布市広報課「調布市公式ホームページ運用補助業務」

令和 5 年度に行われたホームページリニューアル直後ということから、操作の習得・ルールの再設定・前ホームページから移行したジャンルやコンテンツの見直しを、通常業務と並行して実施しました。

2. 協働推進課「ちょうふ地域コミュニティサイト『ちょみっと』運営補助業務」

「ちょうふ地域コミュニティサイト『ちょみっと』」の運営補助として、開発からデータ整理・管理、サイト PR や担当課との定例会報告などを実施しました。イベント入力フォームを 1 から見直し、市のイベントを連携しやすくした他、ユーザーがより入力しやすくなる改善業務を行いました。

3. 「スマートフォン講習会」アシスタント業務

調布市民を対象とした市内自治会主催のスマホ講習会が計 8 回実施され、ぬくもりステーションスタッフ、CAPS 卒業生がアシスタントとして参加しました。

イ-2 「調布市観光 PR 事業」受託

- 対象者 : 調布市内を中心とした就労を希望する若者・若者無業者、高齢者、一度家庭に入り再就労を希望する方、障がい者
- 連携先 : 産業振興課、調布市観光協会、調布市市民活動支援センター、調布パソコンサークル、ちょうふ若者サポートステーション、調布市こころの健康支援センター
就労支援室ライズ、調布国領しごと広場、NPO 法人日本キャリア開発協会、NPO 法人調布市地域情報化コンソーシアム

令和 6 年度はスタッフが安定し、前向きな雰囲気観で観光案内所を運営していく下地が出来た年でした。年度後半に募集方法を見直したこともあり、「働く意欲はあるが自信のない方」「ブランクのある方」が増えています。それまでのスタッフが先輩という立場を担い、新しいスタッフを引っ張ることで互いに成長し、よりよい観光 PR へつながっています。

「ゲゲゲ忌 2024」では例年以上に多くの方の来所があり多忙となりましたが、それを乗り越えたことでチームワークが高まりました。また、4 月よりスタッフユニフォームとして青いビブスを着用し、一体感が生まれています。

就労支援に関しては、調布国領しごと広場への同行や面接対策、就労移行期間を設けるなど、その方にあったサポートが就労へつながりました。さらに、令和 7 年 3 月よりキャリアコンサルタントによる進路相談を開始しています。

1. 研修の実施

- (1) 就労へ向けた研修
- (2) 観光案内のスキルアップ研修
- (3) キャリアコンサルタントとの相談
- (4) イベントでの出展と参加
- (5) 就労相談

2. 就労支援

- (1) 11 人を新規雇用
- (2) 4 人が就労
- (3) 3 人が新たな道への模索を開始

3. インターネットを活用した人材募集への注力を開始

4. ミーティングの実施
5. 市内のイベント参加・派遣
6. 就労支援団体との連携

ウ. 目的を同じくする他団体とのネットワーク構築事業

ウ-1 「調布市平和派遣『ピースメッセンジャー』活動支援業務」受託

対象者 : 調布市内在住・在学の中学生

連携先 : 文化生涯学習課、パンデコングラフィックス、株式会社アートキューブ

調布市が任命した市内の中学生“ピースメッセンジャー”が、調布市近隣に残る戦争遺構の見学や、戦争・平和に関する現地施設の見学等を通じて、学んだことや平和への想いを広く市民に発信する市の事業「平和派遣事業」に協力し、学習や活動の支援を行いました。主な活動内容は次の3つです。

1. 学習会の実施

ピースメッセンジャーの学習効果を高める事を目的に、派遣前2回派遣後4回の計6回（うち1回は台風の為中止）の学習会の企画・進行をしました。

2. 現地派遣の支援

8月8日(木)から8月10日(土)に実施した長崎現地平和活動に同行し、メッセンジャー達とコミュニケーションをとりながらより深い学びの場を作るサポートを行いました。緊張を和らげたりするだけでなく、事業目的を共有して場を締めることも行いました。

3. 報告会の支援

12月8日(日)に文化会館たづくりエントランスホールで行われた報告会の支援を行いました。発表前の学習会では、原稿作りや話し方のレクチャーを行い、本番前の声掛けなども行いました。舞台上でメッセンジャー達は堂々と発表を行い、個々の考える「平和への想い」を参加者へ伝えることができていました。

ウ-2 「『ちょうふピース部』の取組支援業務」受託

対象者 : 過去平和派遣事業に参加した中・高校生世代

連携先 : 文化生涯学習課、調布市原爆被害者の会（調友会）、高校生平和大使・高校生
1万人署名運動、平和のつどい実行委員会、調布エフエム

調布市が別途実施する「平和派遣事業支援業務委託」と連動しながら、平和派遣事業に参加した子どもたちが「ちょうふピース部」として主体的な活動を継続するとともに、「ちょうふピース部」の活動が広く市民の平和について考える機会づくりにつながるよう、「ちょうふピース部」の参加者による活動を支援しました。主な活動内容は次の3つです。

1. ちょうふピース部会の実施

年4回の部会を開催して、活動状況の共有や企画の確認・作業、部員同士の交流機会の創出を行いました。

2. 企画活動の支援

平和のつどい実行委員会から依頼をいただき、「第37回調布平和のつどい」で30分の講演を行いました。講演内容も発表資料も部員で考え作成しました。その平和のつどいをきっかけに、市民作成の調布エフエム番組「東京オアシス」にもゲスト出演し、部員3名が平和への想いを話す機会を得ました。

また、都内にある戦争関連資料館を巡るツアーを開催し、インプット活動を行いました。年度の最後にはそれらの活動内容を記事にした「ピース・レターちょうふピース部特別版」を発行しました。

3. 当該年度派遣事業との連携

当該年度派遣事業（ピースメッセンジャー）の事前学習会でピース部が企画した学習活動を実施しました。自分の経験を話すトークセッション、部員が必要と考えた戦争知識を伝える学習タイム、テーマに沿って意見を交わすディスカッションタイムでは各班の進行を担当しました。

3月にも部会兼交流会を実施し、部の取組を見せると共にオリエンテーションで交流を図りました。最後にピース部への勧誘も実施して新たに7名のメンバーを迎えました。

エ. 青少年世代が近隣の活動に参画し、社会体験を通して自らも地域もより元気になることを目指す地域活性化事業

エ-1 地域団体との連携・協力地域活動

対象者 : 地域を中心にした全世代

連携先 : 調布市各課、市内小学校・中学校・高等学校、石原小学校地区協議会、市民活動支援センター運営委員会、富士見町地域団体連絡会、民生児童委員、石原小学校開放運営委員、調布市健全育成推進石原地区委員会、調布市社会福祉協議会、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団、調布市社会教育委員、東京児童館月イチ学習会、調布市青少年補導連絡会、調布保護司会、調布市子ども・若者総合支援事業地域連携会議、NPO 法人東京養育家庭の会、こども食堂かくししょうじ、第三小学校地区まちづくり協議会・富士見こども連絡会、緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会、調布市健全育成推進緑ヶ丘地区委員会、若者の再出発を支えるネット、市内企業 等

地域団体との連携・協力は、法人設立当初から「青少年が地域で見守られ、共に支援をできる関係づくり」をもとに進めてきました。CAPSがある西部地区、緑ヶ丘児童館、緑ヶ丘小あそびバ、せんがわ学童クラブがある東部地区、さらには、市内全域の支援者との関係性の構築のための団体・個人・行政との連携を行ってきました。

令和6年度は、学校との情報共有を密にし、困難を抱える青少年への支援を行ってきました。また、地域事業への積極的参加・参画することにより、法人や法人の事業への理解、協力者の発掘をしました。

東部地域では、館長の交代があり、改めて関係性の構築を図りました。令和5年度同様、緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会、健全育成推進緑ヶ丘地区委員会、緑ヶ丘小学校学校評議員等に参加をすることで、児童館等の居場所の存在や大切さを伝えてきました。また、地域の中心となっている方が、調布市の会議に出席されている等で、事業での関係性だけでなく、法人としてのつながりも作ることができました。

西部地区では、これまでの、こども食堂・富士見子ども連絡会・盆踊り実行委員・秋祭り実行委員等、令和6年度は調布中学校の桜まつりが学校の生徒会の公約のもと、地域の後押しで4年ぶりに復活となりました。生徒会からの発案であることから、地域団体のみならず、生徒や先生さらには地域の企業とも協力することができたことは、新しい桜まつりの「あり方」として根付いていきそうです。

石原小学校地区協議会の代表は、令和6年度も務め2年目となりました。地域課題には、

高齢化や子どもの居場所、見守りがあげられ、地域の課題への青少年の関わりや、課題が解決することで青少年へ良い影響があることを年頭におき活動をしてきました。今後も地域と共に活動をしていきます。